

哺乳類生息種リスト

目名	種名	学名	現地調査出現種						文献	文献	文献	文献	文献	文献	生息環境
			東大 台ヶ原	西大 台ヶ原	弥山	1	2	3							
モグラ目	カワネズミ	<i>Chimarrogale himalayica</i>						△					△	溪流・小流などに生息し、巢は川岸の石の下などにつく。	
	ジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>											○	森林・草地などに穴居し、繁殖巣は草の茂みや土塊などに草・ササの葉などでつくる。	
	ヒメヒミズ	<i>Dymecodon pilirostris</i>										△	○	○	亜高山、高山の灌木林・ササ地・草本帯等の落葉層の豊富などところに多い。
	ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>	●						○	○	△	○	○	平地から山地の湿度の高い灌木林やブッシュ、特に落葉が多く、地表面での植生密度の高いところを好む。	
	アズマモグラ	<i>Mogera imaizumii</i>										△	○	紀伊半島のものは分布域から離れた孤立小個体群。軟らかく、湿度が高く、深い土壌を好む。	
	コウベモグラ	<i>Mogera wogura</i>										△	○	土壌の軟らかなところに棲み、急斜面・岩石の多い硬い土壌には少ない。	
コウモリ目	キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>											△	平地から山地帯にかけて生息し、休眠・冬眠は主として洞窟。	
	コキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i>											△	主として洞窟に棲み、採餌は林の下層部が主で、密生した林の間隙・河川水面上も利用する。	
	モモジロコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i>											△	海岸から山地までの洞穴、廃坑、トンネル等に棲む。	
	ヒメホオヒゲコウモリ	<i>Myotis ikonnikovi</i>										△	○	VU	ブナ林帯から上部の自然林に多く生息すると考えられ、主に樹洞をねぐらにするとと思われる。
	アブラコウモリ	<i>Pipistrellus abramus</i>											○	山地より都会地に多く、家屋の間隙などに棲む。	
	モリアブラコウモリ	<i>Pipistrellus endoi</i>										△	○	EN	樹洞をねぐらにするとと思われるが、繁殖集団などの確認例はない。
	ヒナコウモリ	<i>Vespertilio superans</i>										△	○	VU	本来は樹洞をねぐらにするとと思われるが、神社や工場などの建造物を利用する例も知られている。
	ウサギコウモリ	<i>Plecotus auritus</i>										△	○		本来は樹洞をねぐらにするとと思われるが、洞窟や家屋での確認例も知られている。
	コテングコウモリ	<i>Murina ussuriensis</i>											○	VU	樹洞・樹皮の間隙、坑道など様々な空所をねぐらとする。採食は低い空間でおこなっている可能性がある。平地から低山のおもに落葉広葉樹林を中心に生活する。
サル目	ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>						○	○	○	○	○		平地から高山の疎林・植林地・草地。特別な巢は作らず、草や低木をおしのけて出産場所をつくる。	
ウサギ目	ノウサギ	<i>Lepus timidus</i>						○	○	○		○		平地から高山の疎林・植林地・草地。特別な巢は作らず、草や低木をおしのけて出産場所をつくる。	
ネズミ目	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	●		●			○	○	○		○		平地から亜高山の比較的明るい林に生息し、主に樹上性。樹皮・小枝等を使って巣をつくる。	
	ホンドモモンガ	<i>Pteromys momonga</i>						○				○		低山から亜高山の森林に生息し、主に樹洞に営巣する。	
	ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>						○		△		○		スギの古木・カン等の常緑広葉樹が植生の主要部を占める大木のある森林。	

目名	種名	学名	現地調査出現種			文献						生息環境
			東大 台ヶ原	西大 台ヶ原	弥山	1	2	3	4	5	6	
ネズミ目	ヤマネ	<i>Glirulus japonicus</i>				○		△		○	NT	天然林や古い二次林の樹上で行動することが多く、巣は樹洞内または枝上にコケや樹皮でつくる。
	スミスネズミ	<i>Eothenomys smithii</i>	●			○	○	△	○	○		低山から亜高山の森林。
	ヤチネズミ	<i>Eothenomys andersoni</i>				○		△	○	○		低山から亜高山の広葉樹林・針葉樹林・ハイマツ帯など。
	ハタネズミ	<i>Microtus montebelli</i>				○		△	○	○		休耕地・草地・幼令造林地など広範囲に生息し、社令造林地、広葉樹林等の森林にはほとんどいない。
	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>									○	定置では沼沢地・堤防等の水辺、高地では草地・耕地・若い植林地に生息し、森林にはいない。
	ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>	●	●		○	○	△	○	○		主に亜高山帯以上の針葉樹林・混交林・広葉樹林。
	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>				○	○	○	○	○		主に森林で、時には草地・高山草地にもみられる。
ネコ目	ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus</i>				○	○	○		○	LP	主にミズナラ・コナラ・ブナ等の落葉広葉樹林。
	キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	●		●	○	○	○	○	○		広範囲にわたる環境にみられ、人家近く、耕地周辺にも生息する。
	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	●			○		△		○		広葉樹林内から林縁部にかけて、水辺に近いところを好む。
	テン	<i>Martes melampus</i>	●		●	○	○	○	○	○		主に低地から亜高山の森林で、巣穴は樹洞や岩穴。
	イタチ	<i>Mustela itatsi</i>				○		○		○		平地から山地の水田のある山沿いや川辺。
	アナグマ	<i>Meles meles</i>	●			○		△		○		平地から高山の森林。巣穴は日当たりの良い山の笹やブや崖中腹に掘る。
	ウシ目	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>				○	○	○		○	
ニホンジカ		<i>Cervus nippon</i>	●			○	○	○	○	○		森林内よりも草地を利用する傾向があり、積雪・餌・繁殖条件によって広い範囲で季節的な移動を起こす。
カモシカ		<i>Capricornis crispus</i>				○	△	○	○	○		常緑針葉樹林・落葉広葉樹林等の森林に多い。

7目15科36種

○：出現種 △：推定種

種名・学名は阿部（1994）にしたがった

文献1：三重県自然科学研究会，1972．大杉谷・大台ヶ原自然科学調査報告書，pp.131-147．

文献2：（財）日本野生生物研究センター，1985．特定自然環境地域保全管理計画策定調査報告書．

文献3：三重県農林水産部林業事務局，1982．大台山系国設鳥獣保護区保護管理計画策定基礎調査報告書．

文献4：三浦慎悟・金森正臣・恩地実・朝日稔，1976．台高山脈・父ヶ谷における哺乳動物相の現状Ⅱ，

まとめ．宮川揚水発電計画に伴う父ヶ谷地域自然環境調査報告書；113-120．

文献5：富田靖男，1979．三重県の哺乳動物相．三重県立博物館研究報告（自然科学），1；1-68．

文献6：環境省自然環境局野生生物課，2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物